

# 三陸鉄道リアス線



「堀内駅」と「白井海岸駅」の間を走る車両

## 三陸鉄道の始まりと変遷

2019年3月23日。岩手県沿岸を走る三陸鉄道の久慈・盛間が、直通列車で結ばれました。長年におよぶ地域住民の思いが、待ちに待って実現しました。

三陸鉄道の敷設は、1896年（明治29年）に起きた三陸地震を機に、住民の悲願となりました。当時、「陸の孤島」といわれた三陸沿岸では、地震後に支援物資の供給がなく、人々の命が脅かされたからです。

1930年に八戸・久慈間（現在のJR八戸線）が開通し、1933年の昭和三陸地震後の1935年から1939年にかけて、このたび復旧した宮古・釜石間（旧JR山田線）が開通しました。戦後も工事は続けられ、1972年に宮古から田老まで、1973年に盛から吉浜まで、1975年に久慈から普代までが開通していました。

## 地域住民の暮らしを守る

その後、国鉄の財政悪化、国鉄再建法などにより、戦後開通した区間は廃止対象となり、未開

通区間の工事は凍結されました。しかし、1984年、地域住民の熱い思いで、それまで未開通だった区間も含め、久慈・宮古間と釜石盛間が第三セクターとして開業し、今日に至ります。

「鉄道が敷かれる以前、江戸時代の沿岸は、北部の久慈から宮古、そして南部の釜石周辺に至るまで南部藩とのつながりが強かったとされていますが、そんな中でも、青森の津軽藩、仙台の伊達藩とも関連しながら岩手県沿岸は独自に発展してきました」と、三陸鉄道運行本部旅客営業部副部長の冨手淳さん。

「そもそも、戦後に建設された現在の三陸鉄道は、津波の被害を最小限に抑えるように線路が敷かれました。そのおかげで、8年前の東日本大震災の被害も最小限でした。地震から5日後には一部で運転を再開し、支援物資や救援のいち早い輸送を実現しま



したから、地域住民も三陸鉄道の重要さを感じていただけたと思います」と、続けてくれました。

## 年間100万人の乗降客数をめざして

三陸鉄道リアス線（久慈・盛間）163キロの開業とともに、旧JR山田線沿線区域に2つの新駅が開設されました。これにより、仮設住宅や震災後に開発された住宅地の利便性が高まりました。

「鉄道ファンはもちろんですが、三陸沿岸の豊富な海の幸、歴史的名所や祭りなどの文化資産、風光明媚な自然の風景など、沿線は豊かな観光資源にあふれています。今年の秋にはラグビーワールドカップ2019の集客も見込み年間100万人が利用してくれる計画です」と、前出の冨手さん。うにほやほたてにちなんだ「うほほ列車」、地元食材が堪能できる「プレミアムランチ列車」など、イベント列車の企画を打ち出し賑わいを取り戻す計画です。多くの人が三陸を訪れてくれることで、沿線地域の活性化につながるでしょう。

## 高さ12mまで競り上がる手づくり山車は必見！久慈秋まつり

1360年代から続く伝統を誇る久慈秋まつりは、五穀豊穡・除災招福を神々に祈願し感謝の意を表し、先人たちにより長く受け継がれてきました。2019年は、9月19日（木）～22日（日）の前夜祭、お通り、中日、お還りの4日間で行われます。前夜祭翌日の「お通り」と最終日の「お還り」は、絢爛豪華な風流山車と、威勢のいかけ声で盛り上がる神輿の競演が見どころです。中日には、久慈市内の保育園・幼稚園の園児から高校生、多くの市民団体が参加する郷土芸能大パレードが行われます。

○久慈秋まつり実行委員会 ☎ 0194-66-9200  
詳しくは <https://www.city.kuji.iwate.jp/kouryuuka/2018/akimaturitokusetu.html>



## 三陸の恵みが詰まった名物、うに弁当

三陸鉄道久慈駅の駅舎内にある『三陸リアス亭』の名物は、びっしりと敷き詰められた蒸しウニたっぷりの『うに弁当（1,470円）』です。毎朝5時から仕込み始めるという工藤クニエさんの手作りで、朝7時のオープン時に行列ができることもあるようです。

○三陸リアス亭 ☎ 0194-52-7310  
営業時間 7:00～16:00頃（不定休）  
※うに弁当は売り切れ次第終了。



1984年から変わることはない三陸鉄道名物です。

## 海に生きる女性たち、北限の海女

岩手県久慈市（小袖海岸）の海女の始まりは、明治時代初頭とされています。遠洋漁業が主流となり、男性たちが何日も家を空けるようになると、畑仕事の合間に女性たちも海に出るようになりました。アワビ、ウニ、ワカメ、コンブなどを採り、素潜りの技術を身に着けたとされています。海女による素潜りの実演は、7月～9月。8月の第1日曜には「北限の海女フェスティバル」が開催され賑わいもピークになります。

○小袖海女センター ☎ 0194-54-2261 開館時間 9:00～16:00  
詳しくは <http://www.kuji-tourism.jp/ama/amacenter/>



## 釜石鵜住居復興スタジアム

東日本大震災後に、鵜住居（うのすまい）小学校と釜石東中学校の跡地に整備されたスタジアムです。ラグビーワールドカップ2019では、フィジー対ウルグアイ、ナミビア対カナダの2試合が予定されています。山と海が近く自然に囲まれたスタジアムは、釜石の復興のシンボルとなっています。ラグビーワールドカップ開催後は、三陸沿岸のスポーツの拠点として利用されます。

詳しくは <https://kamaishi-stadium.jp/>



## 地域住民と一緒に育てる特別純米酒

酔仙酒造は、東日本大震災前から大切にしてきた、技術と心を人から人へ伝え続ける「美酒伝承」を心に刻み、蔵人とともに「地元の風土に合った美しい酒」、「芳醇にして呑み飽きないきれいなお酒」を造り続けています。数ある銘酒の中で、田植えから仕込みまで地域の人々に支えられ造られる特別純米酒「多賀多」は、一献の価値十分です。

○酔仙酒造 ☎ 0192-47-4130 営業時間 8:30～17:00（土日祝休み）  
詳しくは <https://suisenshuzo.jp/company.html>  
※大船渡蔵の無料見学ができます。  
問い合わせは、電話またはホームページで確認してください。

